

国土交通大臣表彰の受賞について

平成29年度建設事業功労表彰式が石井国土交通大臣出席のもと、国土交通省10階共用会議室で行われました。本会から、理事の酒井一郎氏が国土交通大臣表彰を受賞しました。

1. 建設事業功労

氏は、平成2年7月に酒井重工業株式会社に入社し、経営企画部門において経験を積み、平成7年3月に代表取締役社長に就任しました。その後、氏は経営者として、グループの統帥として遺憾なく力量を発揮し、社業の発展並びに建設業界の健全な発展に貢献をしました。

経営理念は、道路建設機械事業を通じて世界の国土開発という社会事業に貢献することを目的とし、スペシャリストとして、常に技術の深耕を図り、世界の道路建設事業の発展に有益な技術を創造していく事であります。平成2年に世界初の垂直振動ローラ SD450 を開発し、建設省(現 国土交通省)の民間開発建設技術審査証明を取得しました。

平成8年に完成した埼玉県栗橋町(現 久喜市)の土質締固め試験設備は、日本で唯一 社団法人日本建設機械化協会 建設機械化研究所(現 一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所)で行われていた締固め試験方法に準拠する試験を行う設備を備えています。

ここでは、締固めメカニズムの解明をはじめとする土木・機械関係の基礎研究から実用化試験、新製品の開発、機能・品質面のテストなどに取り組んでいます。ユーザとの共同開発や大学研究機関からの委託研究も積極的に行っています。

また、同時期に開発した排水性舗装機能回復車 CJ400 は、建設省(現 国土交通省)の建設技術評価制度による評価書を取得しました。なお、この回復車は東京電力福島第一原子力発電所事故後の福島県内放射能除染作業にも使用されました。

このように、その技術は国内外の建設現場に生かされ、世界中の道路網の整備に貢献し、氏は、多くの建設機械メーカ、建設業者からも信頼を寄せられており、長年にわたり建設業界及び社会へ果たした貢献は大なるものがあります。

2. 団体事業功労

氏は、平成7年5月社団法人日本建設機械化協会(現 一般社団法人日本建設機械施工協会) 監事として、平成14年5月には常務理事として就任し、以来、協会活動に積極的に参加し、現在は本会の理事として、業界の発展に貢献をしております。

